

特31

572

地球往来
上

全
冊

022095-001-8

特31-572

地球往来

広瀬 為政/編

上

M6

ADA-0456



明治六年
六月刻成

全二冊

廣瀬為政編脩

地球往來

四書房發兌

572



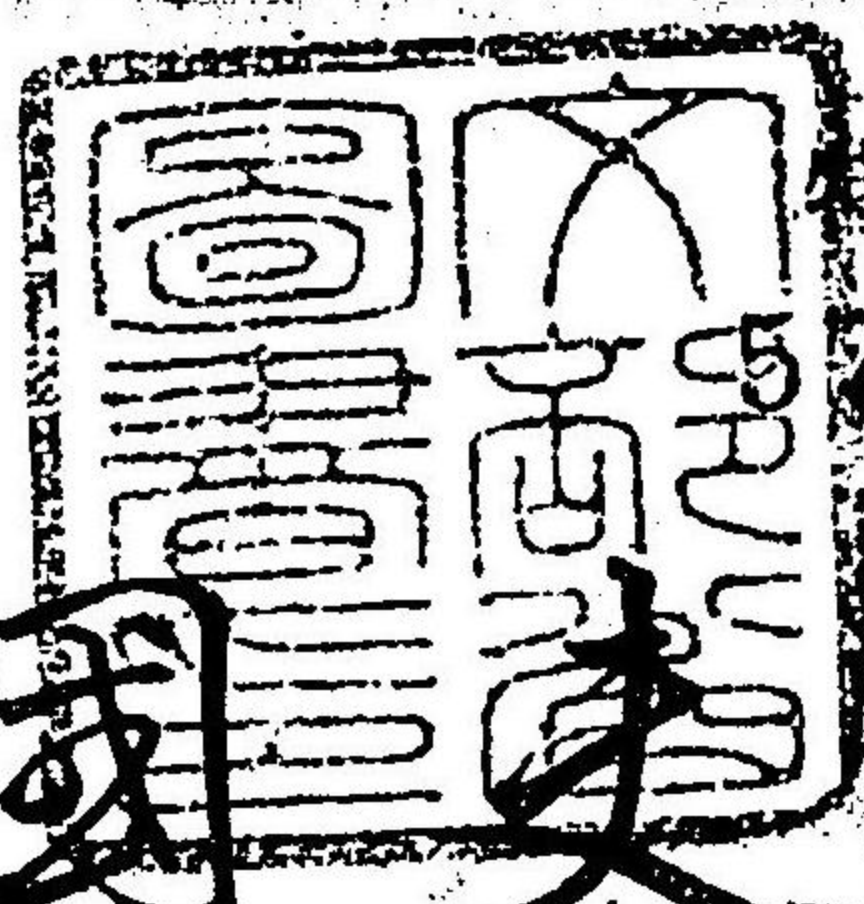
夫人の智識を弘むるに地球各

國の領海を究むるに地理

の學を究むるに地理の學を

究むるに地理の學を究むるに

地理の學を究むるに地理の學



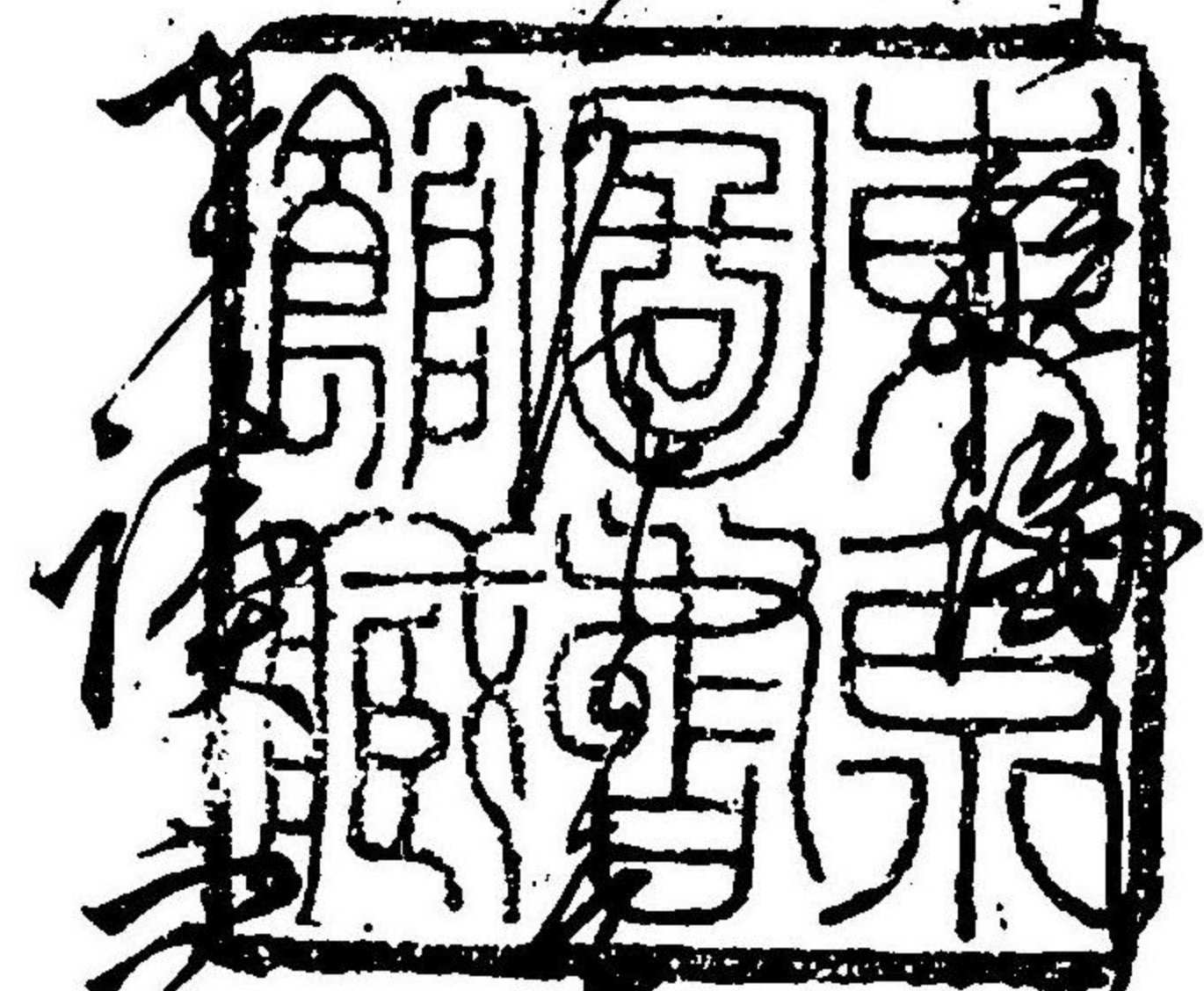
史人の習織を弘むる地球者

國の實相を熟く學ぶ

其の在るを圖せ

史の地理の道は學ぶ

史の地理の道は學ぶ

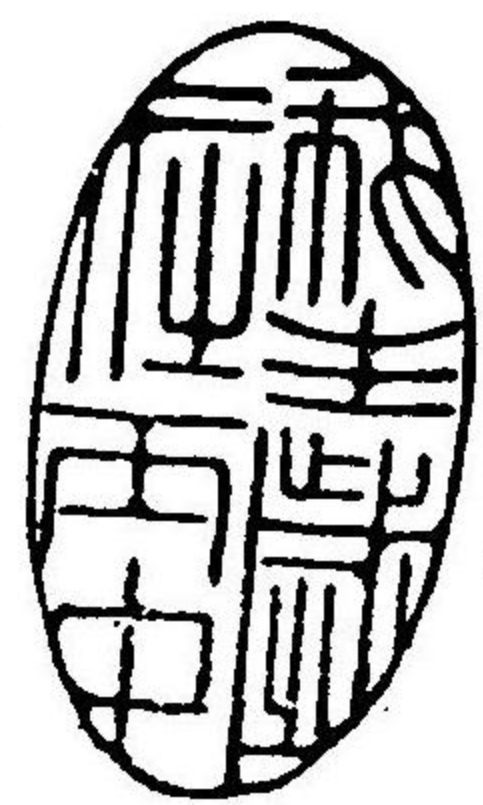


百級子課地子考の考しふは
ハ考し五通奥の考能くは古
白鳥知の考も也考はひ
と考は志の考も或は考蹟の
考を免れは考考地考又

うん考考考考考考考考考考
考味して考考考考考考考考
考考海考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考

明治六年一月五日藏
系根力舎之編脩處

墨田耕丈甫



萬
國
貨
位
概
略

佛 蘭 斯

金貨ナポレオン



クシラフ十五
鉄八十六圓九我

百フラン
我十九圓三十六鉄

クシラフ五
厘八鉄六十九我

クシラフ拾
六鉄三十九圓壹我

クシラフ十
厘二鉄七十八圓三我

銀貨ナポレオン



クシラフ二
二厘七鉄八十三我

クシラフ五
厘八鉄六十九我

銅貨ナポレオン



五セシム
我九厘六八

クシラフ十二
七厘八鉄三我

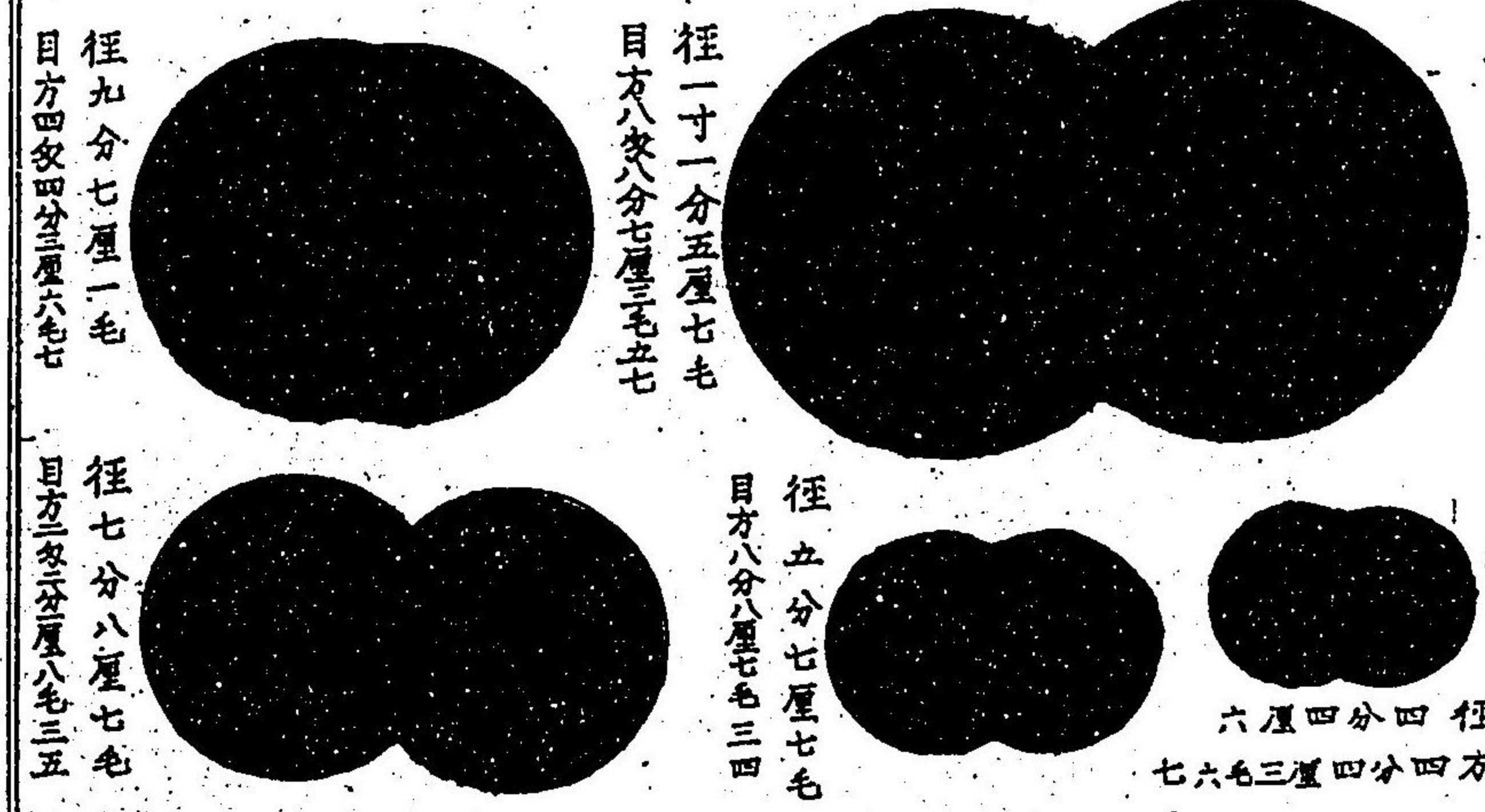
クシラフ十五
八厘六鉄九我

十セシム
我一鉄九厘六

クシラフ壹
六厘三鉄九十我

大 日 本

本位金貨 金九銅一



徑九分七厘一毛
目方四分四分三厘六毛七

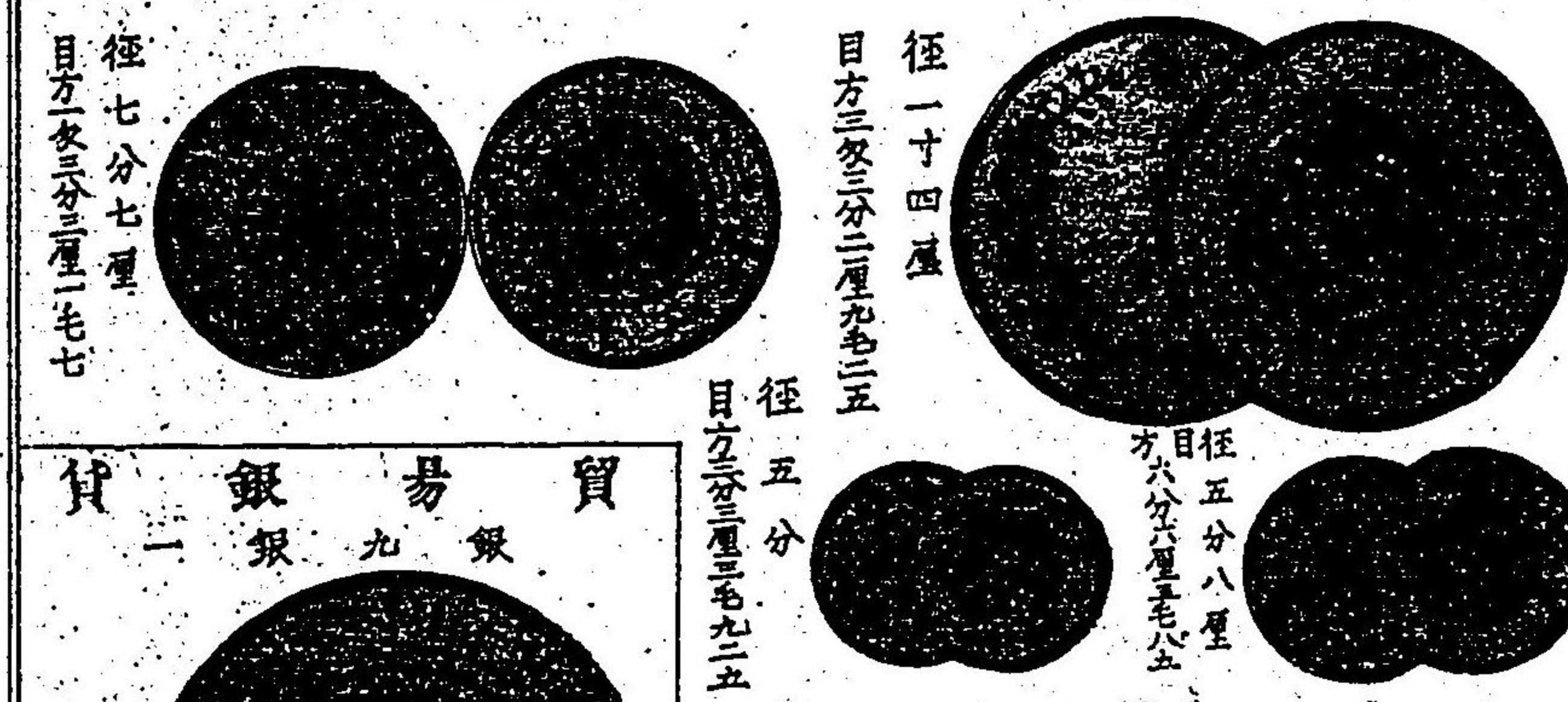
徑一寸一分五厘七毛
目方八分八分七厘七毛七

徑七分八厘七毛
目方四分四分三厘六毛七

徑五分七厘七毛
目方八分八厘七毛三四

六厘四分四厘
七六毛三厘四分四厘目

定位銀貨 銀八銅二



徑七分七厘
目方四分四分三厘六毛七

徑一十四厘
目方三分三分三厘九毛五

徑五分
目方三分三厘三毛九二五

徑五分八厘
目方六分六厘七毛八五

買 易 銀 貨



徑一寸二分四厘
目方七分一分七厘六毛

銅貨



徑五分二厘
目方二分四分一毛五

徑九分
目方四分八分九厘七毛五

徑七分七厘
目方四分四分三厘六毛七

トルコフラン



ニシロフ
我九十六銭

サ ク ソ ン



銀貨

タレント
我七十二銭六厘

五タレル
我四圓十四銭



金貨

半ラロリン
我廿四銭余



地 壙

チユカート
我二圓三十銭



セリン
我二圓廿九銭



ソウレイン
我六圓八銭



金貨



リスダ
我一圓八銭ヨ



銀貨

シハンシゲル
我十六銭六厘ヨ



ニウ
我壹圓



ルケシンハク
我六十六銭余

英 音 利

十二フラン
我二圓四十二銭



廿五フラン
我四圓八十四銭



金貨

ニシムス
我四圓三四



三フラン
我六十銭〇一六

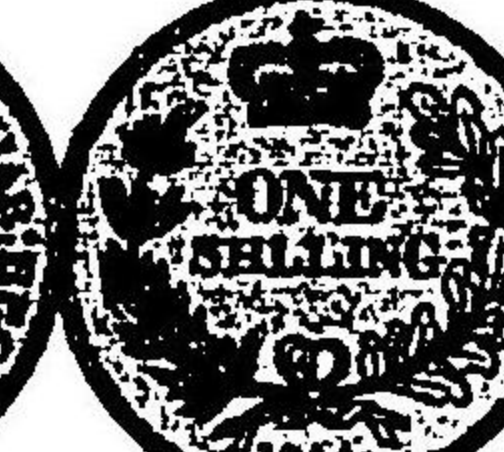


銀貨

シキス
我十二銭八厘四二



一フラン
我廿四銭二厘



魯 音 士

半ゴロン
我三圓廿二銭余



ニフラン
我八圓ヨ



金貨

一ゴロン
我六圓六十五銭八



銀貨

ルレタ
我七十二銭余

時 利 比

ニフランシ
我四十八錢。七二



五フランシ
我九十六錢八厘



銀貨

一フランシ
我十九錢。三六



五フランシ
我九厘八



ル ブ ノ ハ



半
錢一十八圓一我

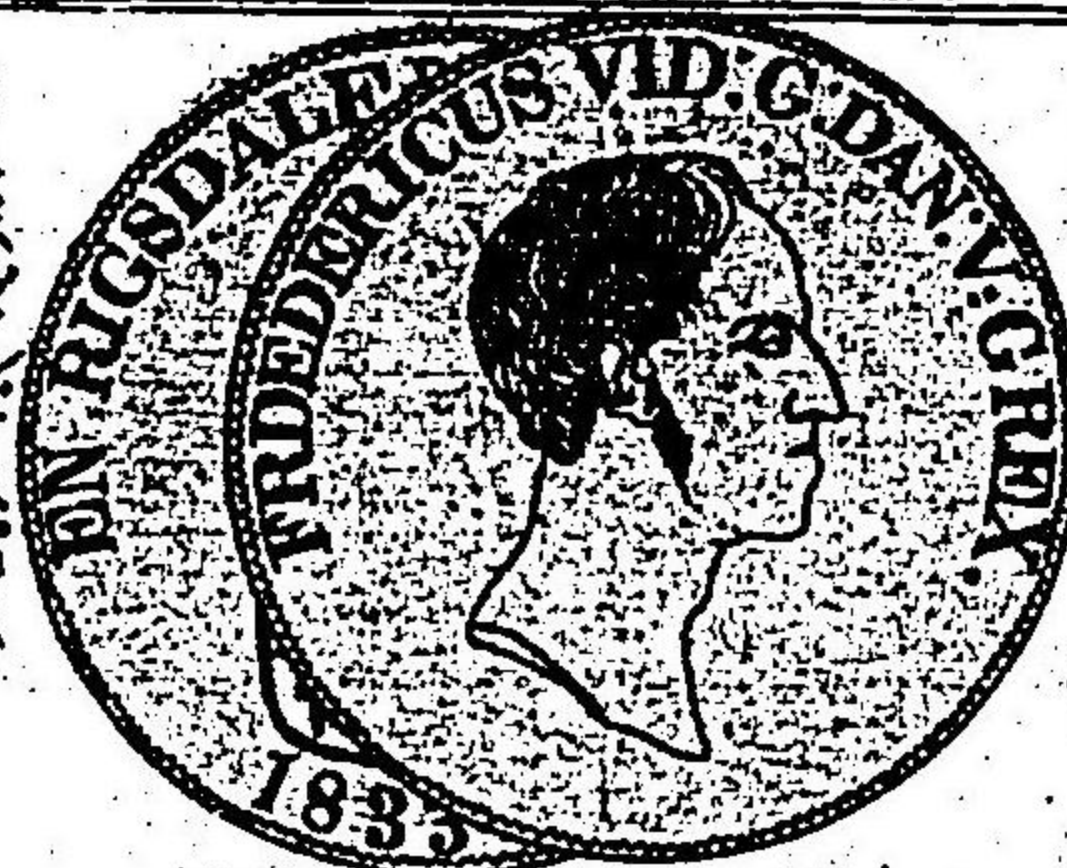
金
タレ
我七十二錢余



銀貨

國 噠

リキスダル
我一圓十錢



銀貨

リキスダル
我五十五錢



キリシヤ
我四圓。五錢六厘



金貨

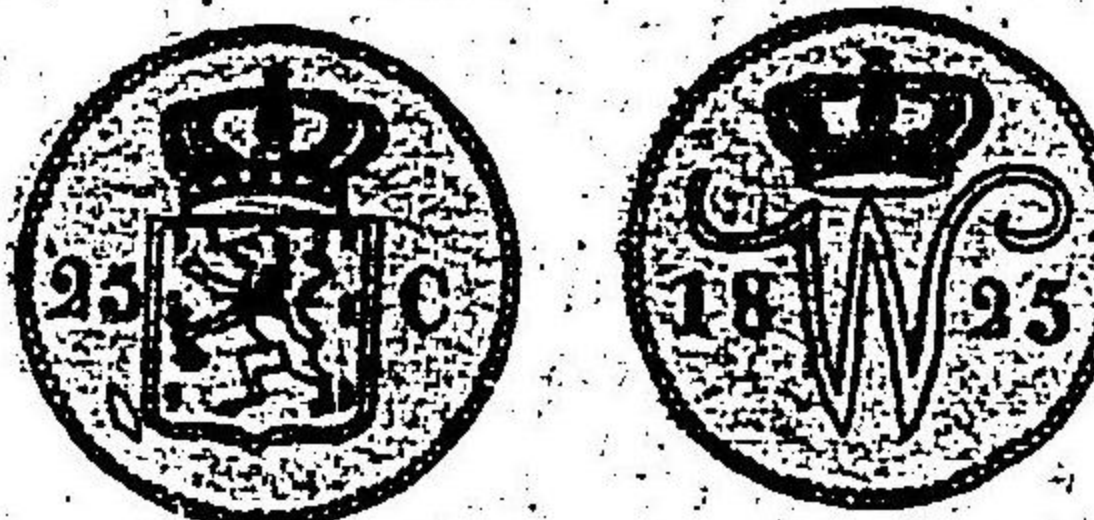
蘭 和

ニフランシ
我一圓。八厘余



銀貨

廿五セント
我十錢余



ニフランシ
我二圓。二十七錢余



金貨

ル ー ビ バ 内 之 曼 耳 日

ゴロデン
我四十錢六厘



ニフランシ
我一圓十錢余



銀貨



半
錢十三圓二我

金貨

半
錢二十錢余



六
錢三錢五厘



グ ル ブ ム テ ル ウ

ゴロデン
我一圓十錢余



銀貨

ニフランシ
我八十二錢五厘



キ
我二圓。七錢五厘



金貨

チ ッ ダ ド ン ラ ク

ゴロデン
我七十錢四厘余



銀貨

ニフランシ
我八十二錢余



五
我二圓。六錢



廿
我二圓。七錢五厘



金貨

金貨



ヒストル
我三圓四十六錢



スエーデン
我一圓三錢余



銀貨

ド一ユキ六立
ヨ八錢八十圓五我

一フランク
我十九錢三六



スノカスト



ニイキ七
三錢二十三圓二我



ニイキ七三
錢七十九圓六我

金貨

スルプナ



十五シユカード
我十四圓廿三錢

金貨

レナホルデン
我一圓〇八錢余



銀貨

六ナホルデン
我四十九錢三六



銀貨

五ソイル
我八十壹錢三余



百二十グライン
我九十八錢七厘三六



典瑞



銀貨

ノルウェー
我七十七錢余



一シベス
余錢九圓一我

亜西魯



銀貨



金貨

ルアルベムイ
七錢九十九圓三我



クペコ五九
余厘三錢九十我

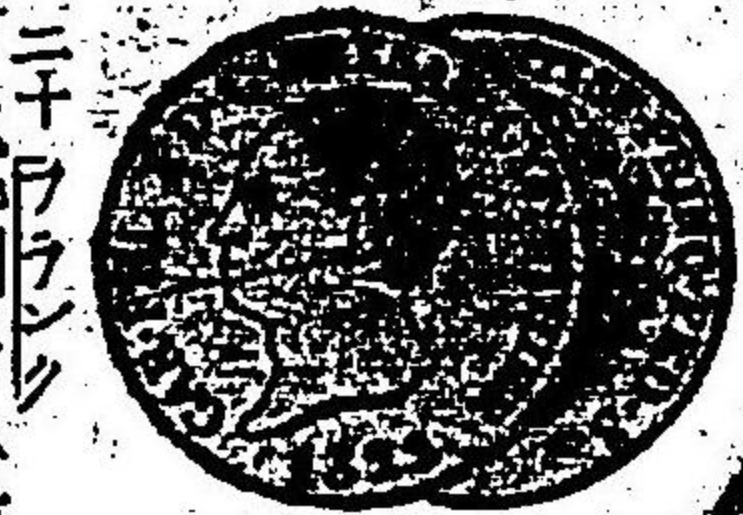
利太以



五フランク
二千フランク
我九圓六十八錢



金貨



貨銀



十フランク
我九錢六厘八



二フランク
我八錢七厘二



五フランク
我九十六錢八厘

西瑞



ニフランク
我三十八錢七厘二



銀貨



五フランク
我九十六錢八厘



半フランク
我九錢六厘八



一フランク
我十九錢三六

牙 葡 葡

金貨


我七千五百
我八百七十錢



我八圓七十七錢

銀貨

我五十七錢



我卅八錢七二

我卅三錢二

南 亞 米 利 加 巴 西

金貨

我八圓七十七錢



我二圓三十錢

土 耳 其

金貨

我三圓四十五錢

銀貨

我九十一錢。九四



ス ウ ク ッ ウ ル

金貨

我十九錢三七

我四圓九十錢

我十二圓五十七錢



銀貨

我十九錢三七

我卅三錢二



ハ ン ボ ン グ

金貨

我二圓六錢

我二圓三十錢



銀貨

我三圓一錢余



牙 班 是

銀貨

我五十五錢。余

我八錢七十枚



金貨

我四圓

我十五圓七十八錢



國 象 合 加 利 米 垂

金貨



廿ドル
我二十圓



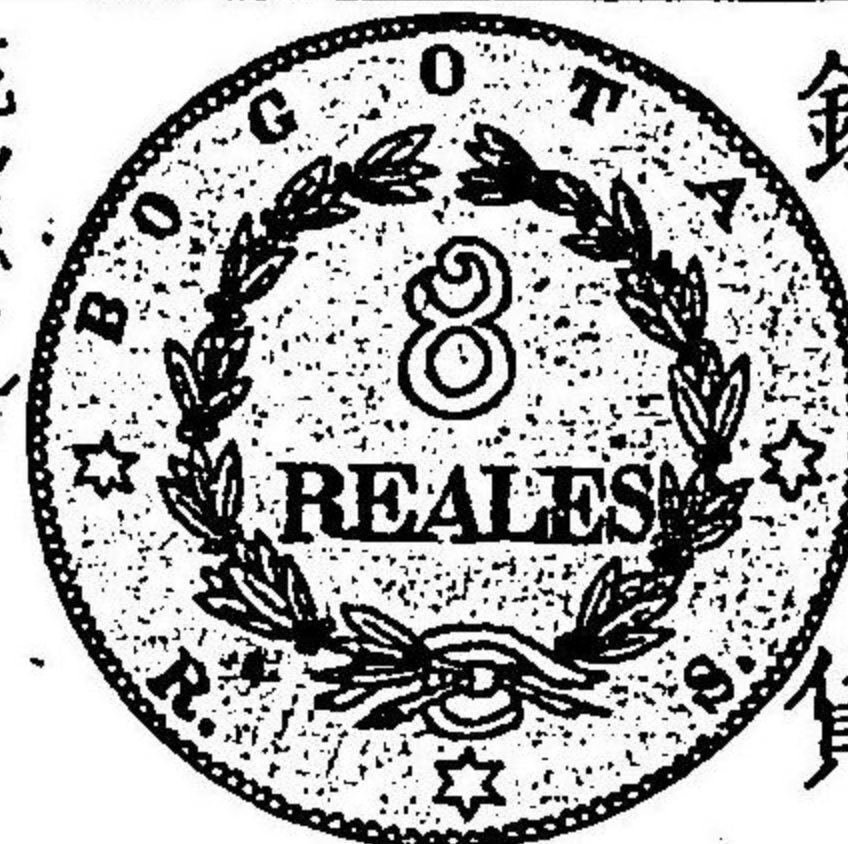
五ドル
我五圓



壹ドル
我壹圓

ダナラグブーノ

銀貨



ヒヤストル
我一圓・四錢余



トシ七
錢壹我



壹ドル
我壹圓

哥 是 墨

垂ヤ比倫哥

銀貨



ヒヤストル
我一圓・五錢



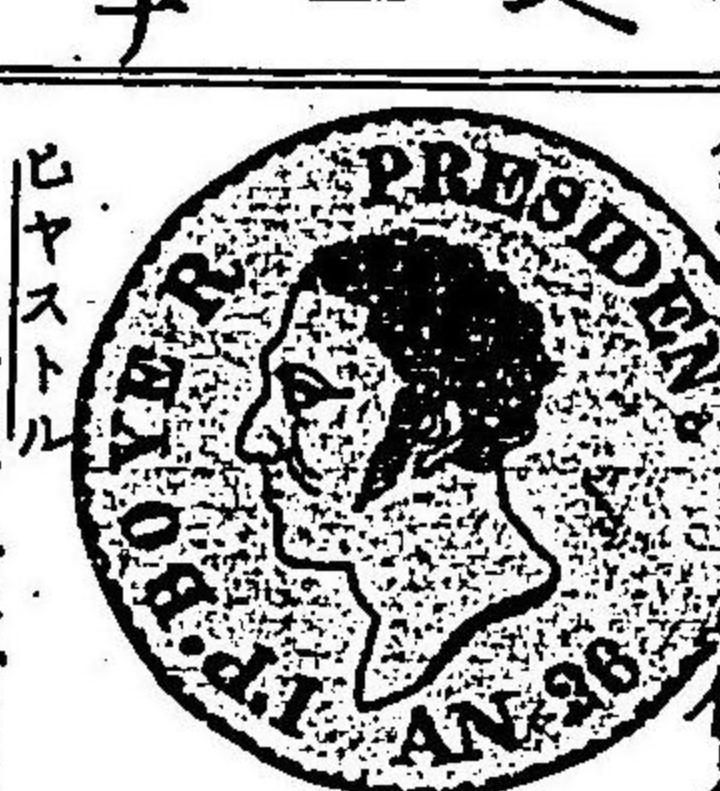
カドリエフル
我十五圓六十八錢余

東印度

金貨



三十七フラン
我七圓十二錢
三十七フラン
我七圓十二錢
三十七フラン
我七圓十二錢



ヒヤストル
我四十八錢七厘



銀貨



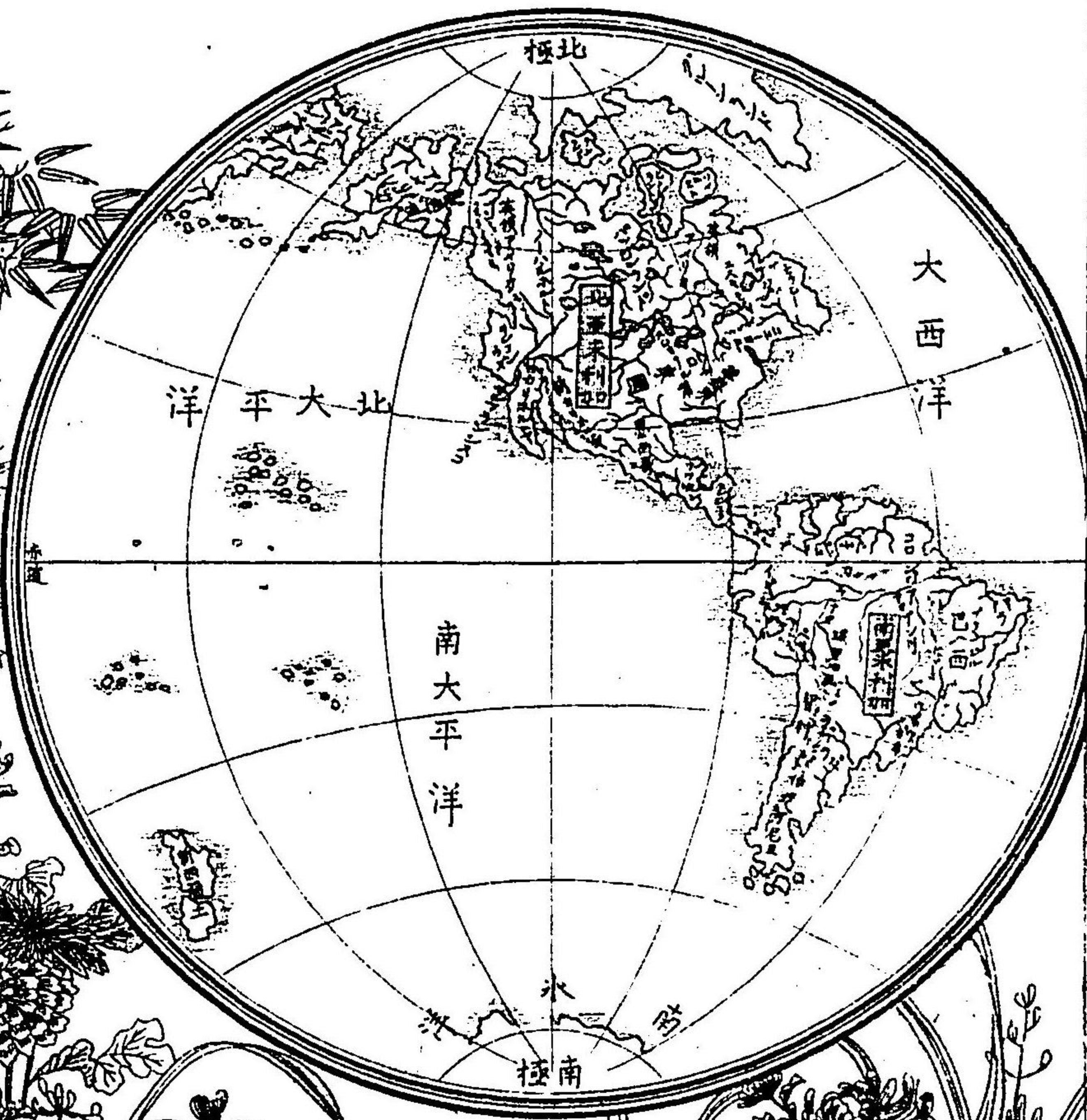
波ス
トシ七九十五
錢二十我

銀貨

大阪中橋筋備後町北 水口銅鑄

西 半 球

東 半 球



地球注来

地球注来

普踏

地球之廣さ一萬國乃

多きを以て大別す

一に合す一五方海

地球注来

此名目ハ唯々「
 細魚阿波利加」
 小と云れその「
 まゝ其印と云
 此魚の名稱を
 南

かしれを品々
 風俗人情を
 筆とらして
 あまふ音ま
 乃種ま終よ先
 大眼を

記載あり。

亞細亞洲

園を地球は往來の路
を西北先より西に
後乃しく陸地を大

平海は西の方。亞細亞
海は在る。日本
西北に在る。郡を亞細亞
の一大國。よみ。印度
北より西に東に方。北

海船戸波踏る日本
 さらけ港の上海へ波
 程と都か下り三百里
 蒸気船としてまゐれを
 五日の足ら費るるに南上

まつると香港を羨る利
 領の新なる交易繁
 舞出地中まはる心洋
 一に羨むる多理柳ま好
 乃風をほ古国を其の

時代より。年を経ると四
千歳仁義皇帝御尊ん
て人情厚まじと聞
て。文政五年化後正会
修政事之基一頃を

我天保十二年英吉利
より打負之に償乃
金高き海銀二千一百
万。其處北より残る
り。猶之過るる弱

兵をまさて戦ひ又負
て今はさうて控懐るま
互細くの南印度地を
西と東を區別して西
なる方の海を東乃

方の南印度の尾
留滞暹羅安南その
まゝの西を政府を
達一國多れと人々隨
てくまのれ一運る程と

北 邦 神 考
緬甸にあつては南よ
まのまに麻刺かしく種門
多しなる出れあひをこの海
満海を乞瀬戸とて美
くは往來の船も賑く

瀬戸を出れを印度海
またたふお歯牙留る海
阿是利河のまはる都
乃名を甲谷地英吉
利領の総奉行印交地

オランダの胡椒の油は
往來の英吉利の威勢
をゆるぎ源とす。
印度地方にあるところ
に和葉坦土司其坦。

南乃瑞の胡椒は坦
と。獨立して名をあれ
や。字のふ甲の英大秋の
西の道は比身西
を古くは元以前から

白河王とつて君隣の
 國を自領せしむるは
 武名を尊ぶるは
 年續一か一時家古
 攻められざるは
 攻められざるは

政府の改革あり
 富強は世とを稱
 比西互の争は海
 砂漠を廣く無
 比

地球往來

巨國^あ。三^{こく}。紅^{くわい}。海^{かい}。北^{ほく}。海^{かい}。之^し。阿^あ。
 刺^し。比^ひ。其^あ。海^{かい}。水^{すい}。之^し。其^あ。身^み。格^{かく}。
 界^{かい}。之^し。中^{ちゆう}。之^し。亞^あ。細^せ。亞^あ。の
 陸^{りく}。北^{ほく}。東^{とう}。之^し。東^{とう}。又^{また}。向^{むか}。ふ。乃^{すなは}。乃^{すなは}。峯^{かみ}。の
 阿^あ。北^{ほく}。利^り。加^か。河^か。中^{ちゆう}。之^し。隔^{かく}。て。く

西^{せい}。紅^{くわい}。海^{かい}。是^{こゝ}。下^{した}。之^し。水^{すい}。の。日^{にち}。錫^{しやく}。
 和^わ。乃^{すなは}。地^ち。峽^{きやく}。之^し。名^な。之^し。高^{たか}。之^し。中^{ちゆう}。
 狭^{せう}。道^{だう}。之^し。北^{ほく}。之^し。出^で。入^い。之^し。地^ち。中^{ちゆう}。
 河^か。之^し。向^{むか}。亞^あ。阿^あ。北^{ほく}。利^り。加^か。河^か。之^し。中^{ちゆう}。
 陸^{りく}。北^{ほく}。利^り。加^か。河^か。之^し。中^{ちゆう}。之^し。隔^{かく}。て。く

乃らるる海に在る小島
 細立西利亞河米尼亞
 已列坦熱名あり河
 出有甚くその地を
 土留古に所領なり。

西北里早を南の支那
 ありひそく水をはりて
 北極海西の烏拉の麓
 より去り近くありあか
 てもなり水石まて廣

ありて東西一千五百里。
 南北ありて八百里。粵西之
 の領地乃々廣大なる方は中
 了。明を元なり。ころす可
 設々し。事以。所を。事方。

筋。伊留久。漢書。西方
 を。一。に。等。波。留。留。形。地。南
 境。北。事。所。久。陀。去。事。買
 城。の。隣。り。て。支。那。と。粵。西
 之。乃。交易。場。事。事。あり。れ。を

星龍江に尻の建てし
 仁右衛門府の千五百平比
 坂夷地より望まのるなる
 ちう起るま在れ海を呼ん
 岐海空をほき出す 図

札徳加三福並れせの
 乃も其まきや
 阿非利加洲
 何地あり河は廣大なる南
 北にさるるなるある東乃

其の廣さ又も二千
海里内地のより成る
ゆる哉唯海岸乃一通り
土地を毛取くこを人
少るも上を思ふをたこと

東乃教今國北印の世
知多る渾沌き界の細
亞洲のよおなる日錫私
北より針多入多
を阿波利か一のちを

其石の土留るるを支配
 成受くしとあぬ今ハ
 けまけて獨立國中を
 流る由留河を其東の
 海欄を既入多小岩

首府を經河の彼居於
 眺まれば石を屬する比
 柱は井匠一雲ふ秀る
 石燈古柱の名も言ふ古
 記なるも同留は考れ所

南を男は巨亞比西尾に
 西の海は瀬戸比くちの
 本島は利印
 海越左を糸道乃南
 みる至給とよやうと別給是

あつらふは東國筋馬生
 別給の漢より海を臨
 てる特加斯格は離ま
 たる島は人民四百七
 十万余人とは事なり

高僧如昌開化も進ん。
 末お佳形極れりも見え。
 阿星利が河の陸のは
 て。よる海も先星むむ花望
 岩子華々々るあまの印度

地つうう上海路比も旅行
 ん。はるよあて暫時淀泊し。
 懽やか慰まむぬ子の情
 を得て名はきしあま
 外ん。そのまきや山岸の西

此方普轉多進之口星
 甲己之西下之及亞利
 伯利亞國を以て水乃
 二ヶまを志番に列せらる
 之西下降海はこれ阿

此程の凡西まを以て理邊
 利亞國のああるかの法は
 無類の苦和政議事院
 して事を以て北東の
 法行は自由の風を福

多。北の廻りして地中海の
乃多めり。此の地を北の
利加の巴。留。巴。里。以。西
北。路。な。り。母。神。古。の。あ。り
か。の。一。番。は。多。量。の。地。味

も。よ。け。ま。さ。と。後。君。の。ゆ。り
北。無。く。て。農。を。勤。る
者。も。れ。東。北。方。の。利。及
期。今。却。去。る。と。四。十。年。
は。業。之。也。取。る。是。不

ひのー陸入多のるふあり
 國の土居形特力波り
 己る不加ままこみなるに
 比撒ま右略れお素秋
 乃そ何地めかの内地の糧ハ

知まけらも方際かまらるる境
 南北方の埃突はら申し
 字の但そのふそ左はは良の
 原として大砂漠を西一千
 三百りと南北およそ四百海

里。客。を。往。來。北。旅。人。を。駱。
 駱。子。數。月。の。糧。と。北。督。
 心。と。南。道。ふ。る。里。砂。濱。
 を。離。去。し。西。北。海。と。出。れ。を。
 馬。地。拉。島。葡。萄。北。島。矣。

酒。の。名。所。を。地。の。名。り。
 同。一。馬。地。拉。酒。を。收。め。
 ヤ。多。う。を。舞。踏。北。島。に。加。
 拿。利。の。名。所。を。馬。の。里。
 多。名。を。法。よ。候。了。多。名。北。督。

以海を舟に春を西
 舟に舟を輪見達路此
 南一千里沖こさひし新
 都多禮那相瓦島を
 注為美めれ拿浦列るぬと云

皇之市河出留樓如鏡
 有之流形より
 島北名譽もすえけ程
 歐羅巴洲
 匠戸所と出地の種を為

ぬき六東北方の山は留山。
 爰よりなる宇良留河東六
 裏海は海は海甲智軍
 山の麓よりし運海ありく
 地中海阿比利洲と和

對し沿布控南多留北瀬
 戸過て西を一西を多留
 海をある四方路里南北
 凡了り里中を列ふ甲十九
 大少海弱時勢かよれく魚

西の音響は澳を刺英
吉利佛のあは五ヶ所ある村
日の出乃威勢なるよま大
河は其中で土地は産と
を束ねまどく人民恒の産

を得る。富は強兵を天
下一それ名の高き源を
人のまぬり部を死に後
神僧を智を以て都
部は名刺なく。諸方よ

達一學校を幾百万の教
 習生に彼ら有貴の繁昌
 一兵備を以て武備足
 して世界を治るを以て
 多。年。後。務。る。事。乃。種

よる。と。呼。ぶ。る。花。を。と。む。
 英吉利と佛蘭西と
 此方獨り誰れ一島の
 種格を柔に葡蘭英倫
 の國をあり勢て合

地球往來

七四

王國と雄名るるより一活
 少人負二千九百萬也百工
 産物遺りなく中み茂
 多し鉄石炭と蒸氣
 三械をとりて水を渡

蒸氣船陸を走るハ
 蒸氣車より飛ぶるも
 傳信機内におき其精
 聞取をもちてお傳ふ百の
 ちんん中心と埋糸針

河時わはしの倫類りんるい府ふを西之
 門かど南みなみに二里にり人口じんこう二百八十
 餘まなは其その智ち業ぎふ中ちゆうに
 あり。夜よるに三十さんじゅう六ろく方ほうは其その郡ぐん
 北きた燈ともしび火ひ耀くやきくはるに
 なる

馬車ばぐるま北きた初はつる。其その家かをを輕かろく
 其その系けいの松まつ河かの架かける鉄てつ
 橋はしを走あそり急いそにに急いそな
 なる多おほ物ものをを其その後あとに於おけ
 る。わの在あり南みなみ堂どう馬ば笛ふえ

の海を渡りて北方一帯に
 佛蘭西は北を約二百六十
 里。南は約二百餘里。
 其北界を西班牙を
 白身義瑞西。南は方を

地中海は北を地中海
 之北と合勢を洲の廣大に
 皇朝之北に次なる帝國
 之人を三子七る事あり。其
 府をスノの列をきり

福類と及りぬど其家並に
 母多子して文学学校の
 おもむる西洋法を類
 知者お多きその中にも
 里園乃翁と名馳せる

月とてうちやんはるその
 外銘酒三百種毎年積
 出と名教ハ幾百万を念
 きの教推して知る一國乃
 富軍艦大小五百艘陸

軍凡五十萬。海可強兵。
と名を尋も得もその理。
西胆牙。此都を麻土。
律土は其の名をさす。此
多れ。人民勤を憚りて。

まは産物多う。以文明。
開化のる程。英と佛。
之に較ふれ。教等と立。
た。ん。あ。の。廻。ま。の。葡。萄。牙。
多。具。形。河。乃。川。早。よ。つ。事。し。

也東生

みふとら「カ」新本とて國王
 住居此都なり。その風俗
 や唐表を西相牙と異
 なるは、今も法技も今日
 目成驚く者知所し。

「り」
 里源本乃漢より南を會
 出せ六治部良田多尔乃
 瀬戸北より南に「つ」の
 南のまに阿波利
 和沙山は方は「つ」の

色家往考

三十一

是れ三方海の要害の地
 中海の咽喉地理を險の地
 産を美名古名易れ大磐
 石嶺を押して皆破打は
 英吉利人此勢を破れぬ

者之れの程多敷瀬戸
 廻まらば把里留島ひが
 乃方ま左南地を以て
 里を越して以て國を
 およばるる三百里北の海

阿百邊山。これ六海。了
 突出。四村のてま年々々々。
 わる春ははるる。秋乃水の初。其山多の極。
 多。世界多教乃好。風景。

北の方を。や。寒く。山。田。極。
 る。世は。首。瓦。の。極。を。蘭。な。
 多。ん。西。乃。す。れ。る。海。空。の。羅。
 馬。は。ま。の。靈。地。と。て。多。多。
 舊。法。あり。た。あ。架。

伊太里國北南の東の渡
 きは希臘自由の地
 土地をれと。今の風俗
 昔日此程の記もれ。北乃
 鄰至玉可極よそ人負三子

二百五十の心あきま一方西
 とあるお分れ東の五細魚を
 押領し。本の印有る歐羅
 巴と帝北威勢やまそ有る
 百有まそく河は海に空

風知識之しく威の至極
 百の可如蒼蒼生ハ可それ
 怖るはるるあり。
 土耳極乃北を澳地利
 魯佛と云ふて南國を

なるは馬入部の河は時
 宇陰那を皇と帝陛下
 北方都人會を生はる水
 五穀菓實苧ろ麻葡
 苗室銀銅鉄斧と禁。

地球往來

廿四

北へ鞭まき六善魯士國人
 口一千八百萬。青島陸軍の比
 軍制なく。文字字を知らさ
 るもの多し。多備して武
 生。兵を五千一萬人四方の

隣の軍と敵との勢も等ま
 する。由北方より少むの守る
 天保五年富と相初るとは
 西の界の禮陰河を北流を
 りまされ。山嶺高き瑞西

玉の如くその苦和を以て小國
 なるれども教を以て百を以て瘡
 業を以てはくし地乃悔りを
 被るに礼陰河のそは尻乃
 和蘭より山賊身をもとめ年を

平地を河多く。地は事六素
 ると貴民のち後の巧さを
 多くは出隄を築き建て
 田畑の心を出精しそを産む
 少もは國の海とを交易

故^ゆ衣^い食^しと院^{いん}なるに。あめの
 とれりは白^{はく}耳^{みみ}義^ぎを平^{へい}荷^か
 業^{わざ}の土地^{とち}をれをそ^{その}風^{ふう}俗^{ぞく}も
 美^これ^こに先^{のう}を^{こう}商^{しやう}の僕^{らふ}ぬ
 よる。國^{くに}の^み富^ふ強^{かう}を^あ強^{かう}ある

